

自決する兵士

2012年8月 80×90×65 c m

1941年、東条英機陸軍大臣名で出された「戦陣訓」は、精神的支柱として、軍人はもとより民間人をも呪縛した。

特に降伏して捕虜になることを禁じ、自決せよとの教えは、大量の餓死や玉砕、集団自決に繋がっていった。

重傷や病いに倒れ、隊列についていけなくなった兵士たちは戦友の足手まといになることを避け、自ら銃口をくわえ、足の親指で引き金を引いて自決していった。これもまた、後方に残って捕虜になることを恐れたからである。捕虜になったことがわかると、郷里の家族親戚に国賊の汚名が待っていた。

戦陣訓 本訓その5

「生きて虜囚の辱めを受けず、死して罪禍の汚名を残すこと勿れ」

生きのびて捕虜となり恥をさらすよりも日本人として潔く自決しなさいという国の教え



シベリア抑留兵士の埋葬

2014年2月 80×90×65 c m

ソ連（現ロシア）は60万人の日本兵を捕虜としてシベリアで強制労働をさせ、多くを死に至らしめた。

シベリアの土は固く凍って掘れず、遺体を土に埋めきることは、疲れきった戦友たちにはかなわなかった。

